



株式会社マツダ自転車工場

TEL.03-5692-6531 FAX.03-5692-6532
URL <http://www.level-cycle.com/>



松田 裕道
代表取締役

代表者：代表取締役 松田 裕道

所在地：〒116-0012 荒川区東尾久1-2-4

資本金：1,000万円

従業員：5人

創業年：昭和26年

業種：自転車製造業

事業内容：オーダーメイド自転車の製造・販売

多様な自転車を作製し新市場掘り起こす

競輪選手向けプロ仕様の自転車づくりで定評がある。各選手一人ひとりのリクエストにきめ細かく対応するフルオーダーメイドで作り上げている。一方で、同じオーダーメイドでも、共通の土台を持つイージーオーダーやセミオーダーといったタイプの自転車も作製している。膝の具合が悪くなり、普通の自転車には乗れなくなった人向けの特殊仕様の自転車がその代表例。あくまでオーダーメイドにこだわりながら、フル、イージー、セミと、オーダー（注文）の度合いが異なる多様な自転車を世に出して、令和時代の自転車新市場を掘り起こしている。

昭和26年創業の同社は、もともとは官公庁などに実用自転車を提供していた。しかし、自転車の製造拠点が日本国内から中国など海外に移り、低コスト・低価格化が進むなかで、生き残りの手段として、実用自転車からオーダーメイド型へと大きく舵を切る。

具体的には、日本自転車振興会の認定を受け、競輪選手のための自転車づくりに乗り出す。昭和55年のことで、以後、昭和、平成、令和の3時代にわたって、競輪用自転車が同社を支える屋台骨となっている。

変形性膝関節症でもこげる自転車を作製

オーダー自転車の製造は、ほぼ全部が手作業の世界。特にフレーム部分をどう創るかが重要であり、フレームビルダーと呼ばれるその道のプロの職人技が欠かせない。その点、同社では、荒川マイスター&東京マイスターの松田志行会長（前代表取締役）をはじめとするプロたちが職人技をいかに発揮して、独自ブランド「LEVEL」を確立している。

ただ、屋台骨の競輪用自転車について、松田裕道代表取締役は「安定して推移してはいるが、大きく伸びることはない」と冷静に見ている。そこで、かねてより競輪以外のオーダーメイド自転車に力を入れている。その一つが前述の、膝が不具合な人向けの自転車となる。

通常、自転車をこぐには膝を110度曲げる必要がある。しかし、変形性膝関節症などを患うと手術をし

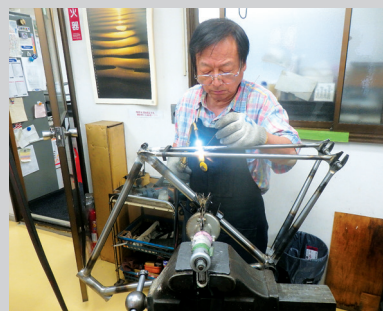
ても90度程度しか曲がらなくなる。そんな人向けに90度でもこげる自転車を開発し、各ユーザーの体格に合わせたイージーオーダーの形で提供している。高齢化の進捗から膝を患う人の総数は日本国内で700万～800万人とも言われており、潜在市場は極めて大きい。

また、自転車愛好家向けにセミオーダー自転車「CITY LINER」も作製してきている。「CITY LINER」には長年のファンが多く、タレントのなぎら健壱さんもファンの一人だという。

フル、イージー、セミの各オーダー自転車を今後も創り続ける同社だが「これまでの創り方はどれも同じようなもの。これからは、それぞれに合った創り方を見つけ出さなければと思っている」（松田代表取締役）と、新たな手法を編み出して、自転車市場をさらに深掘りしていく。

フレームのろう付け技術がキモ

少数精鋭。マイスター松田以下、腕っさきの職人が自転車工房で日々、図面とにらめっこしながらオーダーメイドの自転車づくりに励んでいる。一連の製作工程の中で、特に重要なのがフレームのパイプ同士を接合するろう付け作業。厚さ1.0mm以下の肉薄パイプ同士をつなぐ接合面に、トーチの火で加熱したろうを接合部に均一に流す作業は、ろうが溶けだす温度の見極めと、熱の影響によるパイプのゆがみを計算しながら行わなければならない。フレームの精度と強度、性能を引き出すための、長年の経験と勘が伴う熟練作業だ。



フレームのろう付けをするマイスター松田会長



サイクルショップも運営

◎主な認証・実績等

- ・平成7、8年度 ハンドメイドバイシクルコンテスト最優秀賞受賞
- ・平成22年 ミラノサローネ出展
- ・平成12年 荒川マイスター認定
- ・平成15年 東京マイスター認定
- ・2013北米ハンドメイドバイシクルショー (NAHBS) 最優秀ピストバイク賞
- ・会長賞受賞